

1 学校として目指す授業

目標の明示、見通しをもたせる、振り返る授業を展開する。生徒を主体とした問題解決的な学習を積極的に導入する。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語は全項目で都平均を下回っている。特に都平均正答率との差が顕著な項目として「本文に書かれている内容を理解するために、着目する内容を決めて要約する」（-8.6）、「表現を工夫して物語最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」（-11.6）が挙げられる。 ・数学では「図形」以外の区分で国の平均を下回っており、全体的に力をつけていく必要がある。特に「データの活用」は全国平均より6.8%低く、差が大きかった。説明する問題の無回答率が国の平均より4～6%高かった。基礎基本の定着、主体的に進んで学習に取り組む態度や、粘り強く考える力を伸ばしたい。 ・ICT機器の利用に対する肯定率は都平均より16.9%高い。	「人が困っている時は、進んで助けていますか」に対する肯定的評価（-7.6）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」（-3.3）「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」（-9.0）が都平均よりも低い。 「自分には良いところがある」「先生は認めてくれる」はそれぞれ都平均より11.2%,5.1%高い。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

1年「授業の内容が分かる」の肯定率は国語93.3%社会85.6%数学85.5%理科85.5%英語80%と高い傾向である。その一方で「学習が得意か」の肯定率は、国語71%社会50%数学62%理科50%英語61%と数値が低い。教員の授業の内容は理解しているが、学習が得意だと感じていない生徒が多い。  
 2年 各教科の「授業の内容がわかる」の肯定率の平均が84.8%であるのに対して、「学習が得意か」の肯定率は53.6%と低い。平日の家庭学習の時間が「30分未満」の生徒が37.5%いる。  
 3年 「授業の内容が分かる」についてはどの教科も7割以上の生徒が肯定的な評価をしている。（国語93.4%社会84.6%数学84.6%理科78%英語70.3%）。対して、学習が得意かという問いに対しては（国語63%社会63%数学54.9%理科56%英語47%）となっている。教員による授業の内容は理解しているが、学習が得意ではないと感じている生徒が多い。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語 全国の平均正答率と比べると4.2%上回っていた。設問内容別では「文の文節の数を選ぶ」は-7.3%だった一方、「文を単語に分ける」では13.3%上回っていた。その他の問題の内容別の正答率は、概ねの内容で全国平均を上回っていた。ただし、A層とD層との差が大きい設問内容が見られる。特に、「条件に従って、具体的にまとめた文を空欄に書く」では、86.4%の差が見られた。  
 数学 市の平均正答率と比べると全体で3.8%上回っていた。領域別で見ると「数と式」は+4.1%、「図形」は+3.2%、「関数」は+2.5%、「データの活用」は+8.1%ですべて上回っている。難易度別の正答率では「基礎」+3.0%、「応用」+6.3%であった。学力層の推移で見ると、A層が36.0%いるが、D層も22.5%と一定数いる。A層とD層で正答率の差が80.0%以上となる設問も複数あった。

(3) その他の資料を活用した分析

**活用した資料名及び分析結果**

・東京都統一体力テストでは、どの学年も全国平均より下回っている項目が多い。特に50m走は全ての学年男女共に全国平均を下回っている。授業では、目標を提示し、それに対して自分自身の課題を把握・理解することが必要である。さらには、その課題に対してどのような意識をもって取り組むことが必要なかを、生徒自身が理解することができる授業展開をする必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・5科全学年の傾向として「授業はわかりやすい」と感じているが、「教科が得意」という意識に結びついていない。生徒は全体として授業を落ち着いて受けているが、内容の理解が低く、学習内容の定着は不十分である。また「大人へ相談する」傾向が低く、授業においても生徒が質問する場面が少ない。生徒が自らわからないことを聞けるための支援、環境づくりが必要である。  
 ・特別な支援を要する生徒、境界領域と呼ばれるグレーゾーンの生徒に対する個別の具体的な支援が必要である。（特に数学、英語はできる生徒とできない生徒の2極化が見られる）

**【授業改善推進プランの活用法】**

①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
 ※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。

③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・授業の目標設定が適切か。  
 ・授業の振り返りが適切にできるか。  
 ・生徒の主体性を高めるような、集団づくり、環境づくり、雰囲気づくりが行われているか。（授業デザイン）  
 ・学習に遅れの見られる生徒に対する支援が考えられているか。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	ペアやグループで自分の考えや意見を伝え合い、考えを深め合う機会を設ける。		グループ活動や他者の意見などから考える活動など個別最適で協働的な学びの機会を学習に取り入れる。		習熟度に応じて課題解決方法の見通しをもつ時間を設ける。学びの道筋を振り返る学習を取り入れる。		実験や観察を通して様々な現象に対して深く考え、そこに関わる基本的な知識を習得し、日常生活にいかせるようにする。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を自分の言葉で表し、他の生徒と共有し、自分の表現に生かせるようにする。		試行錯誤を重ねて作品を制作し、発見したことや制作の意図を交換し見方を深め、次の表現に生かせるようにする。		集団行動を身に付け、基礎体力の向上を目指す。各種目の基本的な技術を身に付ける。		身近な問題を発見し、ものづくりを通して課題解決に取り組ませる。		文法学習においてその文法がどのような場面で使われるのかを理解させるために明確な場面設定をする。		今までの自分とこれからの自分を意識させて振り返りを書かせるようにする。	
2 学 年	基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつける。		・多数の解が考えられる問いについて自分の考えを深める授業を通して主体的・対話的で深い学びを実現する。		習熟度別授業を活かし、苦手意識を取り除く。思考の過程を数学の言葉を用いて説明し、互いの意見を共有する学習を取り入れる。		学習内容を理解しそれを日常生活での現象と結びつけて考えることで、知識が身についたかを振り返りできるようにする。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を、他の生徒と共有する中で更に良い表現方法を学び合う取り組みを行う。		構想段階や制作途中で意見交換の場を設け、見通しをもって課題に取り組み、根気強く完成させる経験を増やす。		基本的な技能の習得をしつつ、様々な体力を高めるための運動を実践する。		世の中のテクノロジーに目を向けて、トライアル&エラーで課題解決のために粘り強く取り組ませる。		単元を見通して、評価基準を提示することにより、学習のプロセスを考え、適切に学習を調整させる。		他者の意見を共有し、多様な考え方への理解を深め、よりよい自分やより良い社会について考えられるようにする。	
3 学 年	各段落における中心となる部分と付加的な部分を明確にし、まとめることで、要約した文章を書くことを重点的に指導していく。		一人一人が根拠に基づいて自分の意見を持つようになるための知識の習得と多様な意見や考え方が生まれる発問や課題の設定を通して対話的で深い学びにつなげる。		授業の毎時間の振り返りを大切にし、理解できなかったところは、理解するために何をしたらよいのかを主体的に考えながら取り組めるようにする。		実験観察などを中心に課題に取り組み、考察を進め課題解決に向かう記録を学習カードに記入し、最後に思考過程を振り返る。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を他者や資料等を活用して深め良い表現につなげる力を高める。		美術の持つ社会的な役割や歴史、日本文化の特性にも目を向けた活動を増やす。		基本的な技能を習得し、試合で実践できるようにする。		社会に必要なシステムを考え、最適化された提案をすることができるように取り組ませる。		英語のスピーチやプレゼンテーションによる発表をスモールステップで行っていく。		多様な考えを授業内で共有し、よりよい社会や自己実現に向けて、道徳的实践意欲や態度を養う。	